

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600036		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス松島 ちどりユニット		
所在地	宮城県宮城郡松島町磯崎字長田80-222		
自己評価作成日	令和2年12月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2021年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活動を多く取り入れ活気のある環境とメリハリのある生活を目標にサービス提供を行っております。ただ、その活動は強要するものではなく、伺いを立てご自身で選択していただいております。グループホームですので、生活に変化を多く求めれば、環境の変化に戸惑いや混乱を招いてしまい、症状の悪化や進行を助長してしまう恐れもあります。しかし、家庭での生活の延長線上で考えると、歳時記や季節に合わせた活動はとて多くあります。その、ごく当たり前のことを可能な限り施設に入所しながらでも行えるように取り組んでおります。その為、季節に合わせての日課も異なり、その一つ一つを積み重ねることでその人らしい生活が送れるものかと思ひ、ご本人ご家族からの希望要望もありますが、やりがい生きがいとして生活して頂けるように自立支援に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、2011年設立され、奥松島パークライン沿いの閑静な住宅地にあり、松島海岸が近く利用者の散歩コースにもなっている。母体法人は仙台と松島において、グループホーム、在宅サービスやサービス付高齢者住宅などを運営している。敷地内には、同法人の小規模多機能型施設があり、防災・研修等で連携している。各ユニットの理念は毎年職員で見直し「笑顔あふれる」「心に寄り添い共に元気に」を掲げ、利用者の意向を把握し自立を促しながら利用者へ寄り添ったケアに取り組んでいる。昨年、看護師を配置したり、協力医療機関の定期的訪問診療があるなど、利用者の健康管理面をさらに充実させることができた。職員の意見をもとに、焼き芋大会や手作りの神社など、利用者が楽しめる企画を立て喜ばれている。職員の希望を考慮して各委員会に所属し、職員一人ひとりが役割を担い業務が行えるよう取り組んでいる。法人はキャリアパス制度を導入し、資格取得に対し支援している。また、研修には積極的に参加してもらい、職員の資質向上に繋げている。利用者が楽しく食事ができるよう、希望をメニューに取り入れたり、畑で育てた各季節の野菜を収穫して味わっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23、24、25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9、10、19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18、38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2、20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36、37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11、12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30、31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス松島 ）「ユニット名 ちどり 」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の唱和を毎朝実施。事業所のユニット毎の理念は毎年振り返り再構築し同様に唱和している。	年1回、ユニット理念を見直し、職員の意見を反映させ決定している。朝に行う「活力朝礼」で法人の運営理念とユニットの理念を唱和し、意識付けを図っている。介護度の高い「かもめ」ユニットは、常に利用者に寄り添い細やかな対応ができるよう心掛け、介護度の低い「ちどり」ユニットは、常に声掛けをしながら自立を促すよう取り組み、ケアプランにも反映させている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ということもあって、大々的な交流は実施されず。認知症カフェの開催も出来てはいない。地域の奉仕活動等へ参加している。	コロナ禍で地域行事も制限がされたが、交流が図れるよう、ごみ拾いや草取り、バザーに参加している。町内の掲示板に、認知症カフェの様子や広報紙等を掲示しホームの様子を伝えている。町内会に加入しており、広報紙などが届き地域の情報を得ている。保育所の子供たちの訪問があり、地域から届いた材料で干し柿や門松作りをした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で歳時記の活動を活かすことができず。認知症カフェ等での勉強会も実施出来ていないこともあり、活動記録を広報誌で知見者報告している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催中止となっている。翌月への延期も出来ず、文章等での取り交わしを行っている。	コロナ禍のため、現在は会議のメンバーに資料を送付し、意見をヒアリングしながら議事録を作成し報告している。事故報告への対応や面会時の工夫などの意見が出された。外部評価や自己評価の結果も報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日頃連絡を密に取る機会は少ないが、定期的に運営推進会議等での直接やり取りはあり。	町から研修案内があり、鹿島台のスキルアップ研修に参加した。行事に対する指導や利用者の入居等で連絡があり、例年は、運営推進会議に地域包括職員、町職員が参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	廃止委員会もあって、定期的に身体拘束について勉強会も行っている。 玄関の施錠は身体拘束に該当することは全職員認識している。	身体拘束廃止委員会を設置し、年4回以上マニュアルの確認やスピーチロック、生活の見直しなどについて検討している。新人職員には、採用時に研修を行い、理解するように徹底している。外出要求が強い利用者には、庭を散策するなど気分転換を行っている。防犯上、玄関の施錠は20時半から朝9時迄である。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修も実施。虐待に該当する案件はなにかと勉強会を行なっている。 小まめにミーティングを行いケアの方向性を密に確認している。	身体拘束と虐待防止を合わせ、不適切なケアについての勉強会や、カンファレンスなどで話し合いをしている。収集したヒアリハット事例を基に、内出血やあざ、スピーチロックについてなど、虐待に繋がる行動について職員間で情報共有し、声掛けや介助の仕方などを検討している。	NPO法人介護・福祉ネットみやぎ	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で権利擁護実施し理解を深めている。現状後見人制度を使われているご利用者は在籍されていないが、制度についても同様に研修で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、重要事項を説明した後ご理解頂いた上で契約の取り交わしを行う。項目を一つ一つ説明、常時質疑対応できるように説明をするようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今期においては、コロナウイルス関連にてご利用者及びご家族の参加はなし。 意見や提案があったものは、運営推進会議議事録に記載。	面会や運営推進会議、行事やケアプランの更新時に意見や要望を聞いている。爪切りや散髪等、整容についての要望についても看護師や職員で対応した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所内での定例会議を実施。役員の参加、所長、管理者等も出席し、介護職員からの直接の意見も取れるようにしている。	定例会議やカンファレンス等で職員から意見を聞き、シフトの見直しや休憩室の確保等、業務改善に反映させている。年2回、目標設定時と振り返り時に管理者と面談を実施し、意見・要望を聞いている。キャリアパス制度を導入し、資格取得に対してシフトの調整や金銭面での支援などのバックアップがある。職員の希望を考慮した6つの委員会があり、役割分担をしながら主体的に事業運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を設け、職員のモチベーション向上、将来的な方向性を示し、具体性をもって定期面談を全職員対象で実施している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成はキャリアパス制度に基づいて、計画的に実施している。働きながら制度も設け同行でのコーチングも行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今期は外部への研修参加の機会は激減したが、スキルアップの為、県、町への研修に参加し学びも横の繋がりも作るようにしている。	隣接している同法人の小規模多機能型施設と合同で、行事や研修を開催し交流している。ショートステイの体験研修などを行い、ホームの運営に活かしている。合同で避難訓練を実施し、非常時の垂直避難や、内線での連絡体制など確認している。コロナ禍前は利用者同士も行き来していた。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークから、入所判定会議。入所に至る際にアセスメント全職員で確認している。しかし、それでも情報量としては乏しいので、常時フェイスシートに肉付けし振り返りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	都度の面談の機会を設けているように努めている。また、不安要因等に関しては打開策があれば、提案助言を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所希望があっても、満床の為、サービス提供が困難の際には、希望されるサービス種別に合わせ提案をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場でもあるので、ご本人自立支援を促すためにも、出来る事は炊事、掃除でも行って頂き、生活の中で役割をしっかりと設けるようにし信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは定期的に連絡を取る他に毎月ご利用時の様子を紙面でお伝えしている。コロナ禍で面会の機会は減少したが、オンライン面会等も行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着ということもあるので、地域の行事活動等へ積極的に参加できるよう配慮している。外部の方が介入しやすい環境整備も行い、ご家族にボランティア活動で傾聴等も行っている。	近隣の海に見える公園や、町内の商店街に買い物に行っている。初詣やどんと祭等の季節の行事に出かけることもある。コロナ禍で外出を自粛しているため、室内に職員が手作りした神社を飾りみんなで参拝するなど、慣れ親しんだ習慣を継続できるよう工夫している。親戚の人と年賀状をやり取りしている利用者もいる。遠方の家族とズームで交流したり、家族からの手紙を楽しみにしている利用者もいる。理・美容は資格がある職員が行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人なので合う合わないがあると思うが、関係性構築の為に、職員が介入し一人ひとりが孤立しないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所、ご逝去されたとしても、ご家族との関係性を大切にし、知見者として運営推進会議や行事でボランティアに参加してもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りは当然のことながら、ミーティング及びカンファレンスを行い、本人の意向、希望等の把握に努め、意思表示の困難な際にはご家族の意見も参考にしている。	利用者の表情に留意し寄り添い声掛けしながら、要望や意向を把握し、ミーティングで情報共有して介護計画に活かしている。馴染みの地域や自宅に行きたい利用者にはドライブで対応し、食べたいものはメニューに反映させている。生活歴や趣味などが継続できるように取り組んでおり、編み物や花の手入れ、調理や掃除など行っている。	コロナ禍でできないことが多いが、利用者や家族の要望や思いをくみ取り、実現できるよう検討することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントに肉付けする部分で、ご本人との関りを多く持ち、ご本人様か直接教えて頂く。また、ご家族からの情報提供を頂き、コミュニケーションツールとしても活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方はそれぞれではあるが、日課はここにあるので、ご利用者の役割を含め一人ひとりに合わせた過ごし方ができるようにケアプランにも反映させ望む生活を営むことが出来るよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	抽出された課題に対して、計画を立てケアを実施している。現状に即したものとしても、毎月評価を行い、再度カンファレンスを行うことで、現状との相違が生じないように作成している。	本人と家族の意向、居室担当職員から現状と課題を聞いて計画を立案し、全職員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。必要に応じ医師や福祉用具業者の意見を聞いている。年2回、状態が変化した時には随時、見直している。現在は、介護計画を家族に郵送し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに対しての実施記録を出来た、出来なかったと確認表に記入している。その際の細かい記録も介護記録に残し計画に反映できるよう振り返りを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今期は特にコロナ禍ということもあって想定外の出来事が多くあった。外出自粛、面会制限、外部交流等で施設内での活動や外部との関りも柔軟に対応することが出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源十二分に把握している。ご利用者からも教えて頂く事も多い。このような状況下でも、町内の方々に民生委員等もご支援いただけている。しかし、今期は参加することは少ない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅での生活をそのまま、かかりつけ医はそのままに、長年診て頂いて医師に継続的に受診している。希望があれば協力医の往診若しくは専門医へ繋いでいる。	利用者は協力医療機関がかかりつけ医で、月1～2回訪問診療を受けている。病院での受診の際は、職員が同行し看護師が記録したデータを医師に伝えている。家族には状態をお便りで報告し、薬の変更や状態に変化があったときは、都度連絡している。皮膚科や耳鼻科等の専門科に通院する場合は家族が付き添い、受診結果を情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は常勤で配置されていることもあり、朝礼やミーティング、常時ラウンドを行っているので随時情報の共有が行えている。気付きや伝達にタイムラグは生じず適切に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域密着型で町内に入院可能な病院が1事業所ということもあり、情報共有はしっかりと取られる。また、協力医となっていることもあり関係性も構築されている。また、入院された際にも連絡を密に定期での様子伺いに訪問している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	モニタリングを行い、随時ご家族へは説明を行っている。日々の状態変化も逐一連絡している。終末期に向けては、担当者会議を開催し、主治医等への参加も依頼しご家族への現状から今後について方針の確認し共有している。	入居時に、重度化した場合にホームでできることや医療行為等ができないことを家族に説明している。終末期には家族と医師や看護師、管理者、ケアマネが同席して面談を行い、介護医療院がある病院や老健などを紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で緊急時対応のマニュアル研修を実施している。非常災害訓練も含め、救急隊員より救急救命講習を実施してもらっている。しかし、今年はコロナ禍救急救命のみ実施されていない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に非常災害訓練を実施。平行避難の他垂直避難等も想定。ハザードマップも大きく掲載している。	災害対応マニュアルが整備されている。年2回以上、避難訓練を日中と夜間想定で行っている。総合訓練は年2回、同法人の小規模多機能型施設と合同で行い、消防署と地域住民に協力を依頼し、炊き出しも行った。風水害の際は小規模の2階へ垂直避難することになっている。管理者が手作りしたハザードマップが廊下に掲示されている。厚労省の指示を参考に、清掃や消毒、手洗いなど感染症対策を徹底している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア方法は一人ひとりで対応方法異なり、適切に対応できるよう心掛けている。人格の尊重とプライバシーの確保についても配慮できるよう研修を行い理解を深めている。	これまでの習慣が継続できるよう、利用者に合った呼び方をしている。年1回、マニュアルを参考にプライバシーの研修を行っている。誇りを損ねない観点から、入浴や排泄時のケア方法等の研修を重ね、トイレ誘導や排泄介助時には羞恥心に配慮した対応に努めている。居室へ入室する際はノックをして確認してから入っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で雑談でもなんでも記録に残す様にしており、意向や希望が見られたものはミーティングやカンファレンスを活用し現実的に行なうことが出来るように働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営理念、介護理念にある通り、ご利用者を第一に考え支援できるよう心掛けております。ご利用者毎にケアプランがあるように、それぞれの活動や日課もあるので、希望に沿って支援できるようしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は自己決定される方もいらっしゃるが、選択が困難な方もおります。選択しやすい環境整備、2択にする等の取り組みはしております。場合によっては、自己決定されても季節感や順番を間違ってしまう方もいらっしゃると思いますので、その際は声掛けし促し支援しております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	立って調理が行える方は台所で、難しい方はテーブルで可能な範囲行なっていると考えております。日課で行なっている方もいらっしゃいます。嗜好は一人ひとりその人に合わせ嗜好調査をして、リクエストの提供等もしております。	業者の管理栄養士が献立をたて、チルド食品も活用している。週1回、完全手づくりの日を設定し、利用者からリクエストを聞いてメニューを作成している。おせちや恵方巻、ひな祭り等、季節感を大切にした行事食を取り入れ楽しんでいる。嚥下状態に合わせ、ミキサー食やムース、ペーストなどの調理法で対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士より献立を作成して頂きバランスの摂れた食事を提供しております。水分も1日を通してしっかり摂れたかチェック表を活用しトータル水分量を測定しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは全員実施しております。口腔トラブルにならないよう支援が必要な方へは仕上げも行っております。また、訪問歯科も活用しており、評価も頂きながら口腔ケアに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンは排泄チェック表からも見て取れる通り、排尿間隔は人それぞれです。その方にあったトイレ誘導をしております。自立されている方も同様で羞恥心や自尊心に注意し声掛け等を行っております。	排泄チェック表で排泄パターンを確認し、タイミングに合わせて誘導している。夜間も一人ひとりに合わせ、オムツやパッドの定時交換や声掛け誘導で対応している。状態や尿量に合わせパッドの種類を替えている。便秘対策として牛乳や水分補給、運動を取り入れ、必要に応じ医師からの処方薬を服用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量確保を行い、定期的な運動。施設内での歩行練習、集団での軽体操を行い腸内運動を促し、さらに便秘症の方は飲食を行い、出来る限り自然に排泄ができるよう心掛けております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限りは希望に答えられるようにしておりますが、午前午後で時間帯を決めさせてもらっております。曜日等に関しては、変更希望される方もいらっしゃいますので柔軟に対応しております。	週2回を基本に入浴している。湯は都度交換し、一日2～3人が入浴している。車椅子の利用者にはリフト浴で対応している。入浴時に、肌の状態、スキントラブルやあざなど全身を確認している。季節に合わせてゆず湯などを楽しむ機会もある。必要に応じ、シャワー浴や手浴、清拭などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調管理や照明等に配慮しゆっくり休んで頂ける様に配慮しております。眠くになったら休んで頂けるように照明もトーンダウンし、徐々に休めるよう環境整備しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は全職員把握できるように薬情を見ております。看護師が用意した薬を職員もチェックしてもいます。内服薬が変更になった際には詳細をミーティング等でしっかり伝達しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や個々の有する能力は様々です。アセスメントで得た情報を基にその方に合わせた日課や嗜好、楽しみ事などを職員と一緒に時間を共有し気分転換を図れるようにしております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今期は中々外出の機会を設けることは出来ませんでした。歩いて100m程で海や公園があるので近隣散歩。また、園庭がとても広いので、外周散歩などは取り組んでおります。	コロナ禍以前は、町内の夏祭りや敬老会に参加していた。春は花見に西行戻しの松公園や品井沼、秋は紅葉狩り等出掛け、利用者の要望に応じて出掛けることもある。車いすの利用者には、リフト車を使って出掛けています。現在は、買い物や散歩に出掛けたり、ウッドデッキや芝生で日向ぼっこをし気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時はお支払いができる方はへお金を渡し支払いをしていただきます。買い物も自立支援に繋がるので、金額にもよりますが、ご自身で買いたいと思うものは購入できるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の電話や手紙のやり取りは良くしております。コロナ禍ということもあって、テレビ電話も活用しております。年賀はがき等も作成し送っております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は皆様にご利用される場所なので、不快に思われないように配慮しております。また、全てにおいて過ごしやすい空調管理をしております。清掃も小まめに行い環境衛生及び感染症対策にも努めております。	ホールは天窓があり明るく、室温を22度～23度に保ち、換気を定期的に行っている。ホールや廊下には、利用者が手作りした作品や毎月、職員と一緒に作った季節感ある作品が飾られ居心地が良いように努めている。小上がりのスペースは、来訪者との交流や利用者同士の団らんの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であっても、ソファを配置したり、一人用テーブルを設けたり、小上がりの和室もあるので、各人が思い思いに過ごせるような居場所は設けております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家から馴染の物を持ち込んでもらえるようお願いし、自宅と同じ環境で生活が出来る事を理想としております。その為、皆様、家具も様々ですが、部屋のレイアウトも自由に過ごしやすい環境にして頂いております。	ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けられている。利用者の安全に配慮した動線にし、ベッドや家具を配置している。たんすやテレビ、ラジオ等を持ち込み、利用者の作品や家族の写真、小物などが見やすく飾られ居心地の良い空間となっている。部屋の片づけや掃除は、利用者と担当職員が一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	空間認識が失認されてしまう方もおりますので、わかりやすい表示により、失行も軽減出来る事も増え、可能な限り自立支援できるよう環境作りを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600036		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス松島 かもめユニット		
所在地	宮城県宮城郡松島町磯崎字長田80-222		
自己評価作成日	令和2年12月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2021年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活動を多く取り入れ活気のある環境とメリハリのある生活を目標にサービス提供を行っております。ただ、その活動は強要するものではなく、伺いを立てご自身で選択していただいております。グループホームですので、生活に変化を多く求めてしまえば、環境の変化に戸惑いや混乱を招いてしまい、症状の悪化や進行を助長してしまう恐れもあります。しかし、家庭での生活の延長線上で考えると、歳時記や季節に合わせた活動はとて多くあります。その、ごく当たり前のことを可能な限り施設に入所しながらでも行えるように取り組んでおります。その為、季節に合わせての日課も異なり、その一つ一つを積み重ねることでその人らしい生活が送れるものかと思ひ、ご本人ご家族からの希望要望もありますが、やりがい生きがいとして生活して頂けるように自立支援に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、2011年設立され、奥松島パークライン沿いの閑静な住宅地にあり、松島海岸が近く利用者の散歩コースにもなっている。母体法人は仙台と松島において、グループホーム、在宅サービスやサービス付高齢者住宅などを運営している。敷地内には、同法人の小規模多機能型施設があり、防災・研修等で連携している。各ユニットの理念は毎年職員で見直し「笑顔あふれる」「心に寄り添い共に元気に」を掲げ、利用者の意向を把握し自立を促しながら利用者へ寄り添ったケアに取り組んでいる。昨年、看護師を配置したり、協力医療機関の定期的訪問診療があるなど、利用者の健康管理面をさらに充実させることができた。職員の意見をもとに、焼き芋大会や手作りの神社など、利用者が楽しめる企画を立て喜ばれている。職員の希望を考慮して各委員会に所属し、職員一人ひとりが役割を担い業務が行えるよう取り組んでいる。法人はキャリアパス制度を導入し、資格取得に対し支援している。また、研修には積極的に参加してもらい、職員の資質向上に繋げている。利用者が楽しく食事ができるよう、希望をメニューに取り入れたり、畑で育てた各季節の野菜を収穫して味わっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス松島 ）「ユニット名 かもめ 」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の唱和を毎朝実施。事業所のユニット毎の理念は毎年振り返り再構築し同様に唱和している。	年1回、ユニット理念を見直し、職員の意見を反映させ決定している。朝に行う「活力朝礼」で法人の運営理念とユニットの理念を唱和し、意識付けを図っている。介護度の高い「かもめ」ユニットは、常に利用者に寄り添い細やかな対応ができるよう心掛け、介護度の低い「ちどり」ユニットは、常に声掛けをしながら自立を促すよう取り組み、ケアプランにも反映させている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ということもあって、大々的な交流は実施されず。認知症カフェの開催も出来てはいない。地域の奉仕活動等へ参加している。	コロナ禍で地域行事も制限がされたが、交流が図れるよう、ごみ拾いや草取り、バザーに参加している。町内の掲示板に、認知症カフェの様子や広報紙等を掲示しホームの様子を伝えている。町内会に加入しており、広報紙などが届き地域の情報を得ている。保育所の子供たちの訪問があり、地域から届いた材料で干し柿や門松作りをした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で歳時記の活動を活かすことができず。認知症カフェ等での勉強会も実施出来ていないこともあり、活動記録を広報誌で知見者報告している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催中止となっている。翌月への延期も出来ず、文章等での取り交わしを行っている。	コロナ禍のため、現在は会議のメンバーに資料を送付し、意見をヒアリングしながら議事録を作成し報告している。事故報告への対応や面会時の工夫などの意見が出された。外部評価や自己評価の結果も報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日頃連絡を密に取る機会は少ないが、定期的に運営推進会議等での直接やり取りはあり。	町から研修案内があり、鹿島台のスキルアップ研修に参加した。行事に対する指導や利用者の入居等で連絡があり、例年は、運営推進会議に地域包括職員、町職員が参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	廃止委員会もあって、定期的に身体拘束について勉強会も行っている。 玄関の施錠は身体拘束に該当することは全職員認識している。	身体拘束廃止委員会を設置し、年4回以上マニュアルの確認やスピーチロック、生活の見直しなどについて検討している。新人職員には、採用時に研修を行い、理解するように徹底している。外出要求が強い利用者には、庭を散策するなど気分転換を行っている。防犯上、玄関の施錠は20時半から朝9時迄である。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修も実施。虐待に該当する案件はなにかと勉強会を行なっている。 小まめにミーティングを行いケアの方向性を密に確認している。	身体拘束と虐待防止を合わせ、不適切なケアについての勉強会や、カンファレンスなどで話し合いをしている。収集したヒアリハット事例を基に、内出血やあざ、スピーチロックについてなど、虐待に繋がる行動について職員間で情報共有し、声掛けや介助の仕方などを検討している。	NPO法人介護・福祉ネットみやぎ	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で権利擁護実施し理解を深めている。現状後見人制度を使われているご利用者は在籍されていないが、制度についても同様に研修で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、重要事項を説明した後ご理解頂いた上で契約の取り交わしを行う。項目を一つ一つ説明、常時質疑対応できるように説明をするようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今期においては、コロナウイルス関連にてご利用者及びご家族の参加はなし。意見や提案があったものは、運営推進会議議事録に記載。	面会や運営推進会議、行事やケアプランの更新時に意見や要望を聞いている。爪切りや散髪等、整容についての要望についても看護師や職員で対応した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所内での定例会議を実施。役員の参加、所長、管理者等も出席し、介護職員からの直接の意見も取れるようにしている。	定例会議やカンファレンス等で職員から意見を聞き、シフトの見直しや休憩室の確保等、業務改善に反映させている。年2回、目標設定時と振り返り時に管理者と面談を実施し、意見・要望を聞いている。キャリアパス制度を導入し、資格取得に対してシフトの調整や金銭面での支援などのバックアップがある。職員の希望を考慮した6つの委員会があり、役割分担をしながら主体的に事業運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を設け、職員のモチベーション向上、将来的な方向性を示し、具体性をもって定期面談を全職員対象で実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成はキャリアパス制度に基づいて、計画的に実施している。働きながら制度も設け同行でのコーチングも行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今期は外部への研修参加の機会は激減したが、スキルアップの為、県、町への研修に参加し学びも横の繋がりも作るようにしている。	隣接している同法人の小規模多機能型施設と合同で、行事や研修を開催し交流している。ショートステイの体験研修などを行い、ホームの運営に活かしている。合同で避難訓練を実施し、非常時の垂直避難や、内線での連絡体制など確認している。コロナ禍前は利用者同士も行き来していた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークから、入所判定会議。入所に至る際にアセスメント全職員で確認している。しかし、それでも情報量としては乏しいので、常時フェイスシートに肉付けし振り返りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	都度の面談の機会を設けいるように努めている。また、不安要因等に関しては打開策があれば、提案助言を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所希望があっても、満床の為、サービス提供が困難の際には、希望されるサービス種別に合わせ提案をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の間でもあるので、ご本人自立支援を促すためにも、出来る事は炊事、掃除でも行って頂き、生活の中で役割をしっかりと設けるようにし信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは定期的に連絡を取る他に毎月ご利用時の様子を紙面でお伝えしている。コロナ禍で面会の機会は減少したが、オンライン面会等も行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着ということもあるので、地域の行事活動等へ積極的に参加できるよう配慮している。外部の方が介入しやすい環境整備も行い、ご家族にボランティア活動で傾聴等も行っている。	近隣の海が見える公園や、町内の商店街に買い物に行っている。初詣やどんと祭等の季節の行事に出かけることもある。コロナ禍で外出を自粛しているため、室内に職員が手作りした神社を飾りみんなで参拝するなど、慣れ親しんだ習慣を継続できるよう工夫している。親戚の人と年賀状をやり取りしている利用者もいる。遠方の家族とズームで交流したり、家族からの手紙を楽しみにしている利用者もいる。理・美容は資格がある職員が行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活という中で、孤立しないよう座席配置や声掛け、職員の介入等に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所、ご逝去されたとしても、ご家族との関係性を大切にし、知見者として運営推進会議や行事でボランティアに参加してもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	中には声にならない声もあるので、ご本人の行動や表情、またはご家族からの意見等も伺いながら、ご本人の希望に沿った対応ができるようにカンファレンス等で確認をとっている。	利用者の表情に留意し寄り添い声掛けしながら、要望や意向を把握し、ミーティングで情報共有して介護計画に活かしている。馴染みの地域や自宅に行きたい利用者にはドライブで対応し、食べたいものはメニューに反映させている。生活歴や趣味などが継続できるように取り組んでおり、編み物や花の手入れ、調理や掃除など行っている。	コロナ禍でできないことが多いが、利用者や家族の要望や思いをくみ取り、実現できるよう検討することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントに肉付けする部分で、ご本人との関りを多く持ち、ご本人様か直接教えて頂く。また、ご家族からの情報提供を頂き、コミュニケーションツールとしても活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方はそれぞれではあるが、日課はここにあるので、ご利用者の役割を含め一人ひとりに合わせた過ごし方ができるようにケアプランにも反映させ望む生活を営むことが出来るよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	抽出された課題に対して、計画を立てケアを実施している。現状に即したものとしても、毎月評価を行い、再度カンファレンスを行うことで、現状との相違が生じないように作成している。	本人と家族の意向、居室担当職員から現状と課題を聞いて計画を立案し、全職員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。必要に応じ医師や福祉用具業者の意見を聞いている。年2回、状態が変化した時には随時、見直している。現在は、介護計画を家族に郵送し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに対しての実施記録を出来た、出来なかったと確認表に記入している。その際の細かい記録も介護記録に残し計画に反映できるよう振り返りを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今期は特にコロナ禍ということもあって想定外の出来事が多くあった。外出自粛、面会制限、外部交流等で施設内での活動や外部との関りも柔軟に対応することが出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源十二分に把握している。ご利用者からも教えて頂く事も多い。このような状況下でも、町内の方々に民生委員等もご支援いただけている。しかし、今期は参加することは少ない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅での生活をそのまま、かかりつけ医はそのままに、長年診て頂いて医師に継続的に受診している。希望があれば協力医の往診若しくは専門医へ繋いでいる。	利用者は協力医療機関がかかりつけ医で、月1～2回訪問診療を受けている。病院での受診の際は、職員が同行し看護師が記録したデータを医師に伝えている。家族には状態をお便りで報告し、薬の変更や状態に変化があったときは、都度連絡している。皮膚科や耳鼻科等の専門科に通院する場合は家族が付き添い、受診結果を情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は常勤で配置されていることもあり、朝礼やミーティング、常時ラウンドを行っているので随時情報の共有が行えている。気づきや伝達にタイムラグは生じず適切に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域密着型で町内に入院可能な病院が1事業所ということもあり、情報共有はしっかりと取られる。また、協力医となっていることもあり関係性も構築されている。また、入院された際にも連絡を密に定期での様子伺いに訪問している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	比較的介護度が上がってきていることもあり、重度化や終末期の在り方についてはご家族と方向性の確認を適宜行えるようにしている。場合によっては主治医等にも参加を依頼している。	入居時に、重度化した場合にホームでできることや医療行為等ができないことを家族に説明している。終末期には家族と医師や看護師、管理者、ケアマネが同席して面談を行い、介護医療院がある病院や老健などを紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で緊急時対応のマニュアル研修を実施している。非常災害訓練も含め、救急隊員より救急救命講習を実施してもらっている。しかし、今年はコロナ禍救急救命のみ実施されていない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に非常災害訓練を実施。平行避難の他垂直避難等も想定。ハザードマップも大きく掲載している。	災害対応マニュアルが整備されている。年2回以上、避難訓練を日中と夜間想定で行っている。総合訓練は年2回、同法人の小規模多機能型施設と合同で行い、消防署と地域住民に協力を依頼し、炊き出しも行った。風水害の際は小規模の2階へ垂直避難することになっている。管理者が手作りしたハザードマップが廊下に掲示されている。厚労省の指示を参考に、清掃や消毒、手洗いなど感染症対策を徹底している。	NPO法人介護・福祉ネットみやぎ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア方法は一人ひとりで対応方法異なり、適切に対応できるよう心掛けている。人格の尊重とプライバシーの確保についても配慮できるよう研修を行い理解を深めている。	これまでの習慣が継続できるよう、利用者に合った呼び方をしている。年1回、マニュアルを参考にプライバシーの研修を行っている。誇りを損ねない観点から、入浴や排泄時のケア方法等の研修を重ね、トイレ誘導や排泄介助時には羞恥心に配慮した対応に努めている。居室へ入室する際はノックをして確認してから入っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で雑談でもなんでも記録に残す様にしており、意向や希望が見られたものはミーティングやカンファレンスを活用し現実的に行なうことが出来るように働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営理念、介護理念にある通り、ご利用者を第一に考え支援できるよう心掛けております。ご利用者毎にケアプランがあるように、それぞれの活動や日課もあるので、希望に沿って支援できるようしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は自己決定される方もいらっしゃるが、選択が困難な方もあります。選択しやすい環境整備、2択にする等の取り組みはしております。場合によっては、自己決定されても季節感や順番を間違ってしまう方もいらっしゃいますので、その際は声掛けし促し支援しております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	立って調理が行える方は台所で、難しい方はテーブルで可能な範囲行なっていると考えております。日課で行なっている方もいらっしゃいます。嗜好は一人ひとりその人に合わせ嗜好調査をして、リクエストの提供等もしております。	業者の管理栄養士が献立をたて、チルド食品も活用している。週1回、完全手づくりの日を設定し、利用者からリクエストを聞いてメニューを作成している。おせちや恵方巻、ひな祭り等、季節感を大切にした行事食を取り入れ楽しんでいる。嚥下状態に合わせ、ミキサー食やムース、ペーストなどの調理法で対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士より献立を作成して頂きバランスの摂れた食事を提供しております。水分も1日を通してしっかり摂れたかチェック表を活用しトータル水分量を測定しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは全員実施しております。口腔トラブルにならないよう支援が必要な方へは仕上げも行っております。また、訪問歯科も活用しており、評価も頂きながら口腔ケアに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンは排泄チェック表からも見て取れる通り、排尿間隔は人それぞれです。その方にあったトイレ誘導をしております。自立されている方も同様に羞恥心や自尊心に注意し声掛け等を行っております。	排泄チェック表で排泄パターンを確認し、タイミングに合わせて誘導している。夜間も一人ひとりに合わせ、オムツやパッドの定時交換や声掛け誘導で対応している。状態や尿量に合わせてパッドの種類を替えている。便秘対策として牛乳や水分補給、運動を取り入れ、必要に応じ医師からの処方薬を服用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量確保を行い、定期的な運動。施設内での歩行練習、集団での軽体操を行い腸内運動を促し、さらに便秘症の方は飲食を行い、出来る限り自然に排泄ができるよう心掛けております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限りは希望に答えられるようにしておりますが、午前午後で時間帯を決めさせてもらっております。曜日等に関しては、変更希望される方もいらっしゃいますので柔軟に対応しております。	週2回を基本に入浴している。湯は都度交換し、一日2～3人が入浴している。車椅子の利用者にはリフト浴で対応している。入浴時に、肌の状態、スキントラブルやあざなど全身を確認している。季節に合わせてゆず湯などを楽しむ機会もある。必要に応じ、シャワー浴や手浴、清拭などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調管理や照明等に配慮しゆっくり休んで頂ける様に配慮しております。眠くなったら休んで頂けるように照明もトーンダウンし、徐々に休めるよう環境整備しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は全職員把握できるように薬情を見ております。看護師が用意した薬を職員もチェックしてまいります。内服薬が変更になった際には詳細をミーティング等でしっかり伝達しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や個々の有する能力は様々です。アセスメントで得た情報を基にその方に合わせた日課や嗜好、楽しみ事などを職員と一緒に時間を共有し気分転換を図れるようにしております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今期は中々外出の機会を設けることは出来ませんでした。歩いて100m程で海や公園があるので近隣散歩。また、園庭がとても広いので、外周散歩などは取り組んでおります。	コロナ禍以前は、町内の夏祭りや敬老会に参加していた。春は花見に西行戻しの松公園や品井沼、秋は紅葉狩り等出掛け、利用者の要望に応じて出掛けることもある。車いすの利用者には、リフト車を使って出掛けしている。現在は、買い物や散歩に出掛けたり、ウッドデッキや芝生で日向ぼっこをし気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時はお支払いができる方はへお金を渡し支払いをしていただきます。買い物も自立支援に繋がるので、金額にもよりますが、ご自身で買いたいと思うものは購入できるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の電話や手紙のやり取りは良くしております。コロナ禍ということもあって、テレビ電話も活用しております。年賀はがき等も作成し送っております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は皆様ご利用される場所なので、不快に思われないように配慮しております。また、全てにおいて過ごしやすい空調管理をしております。清掃も小まめに行い環境衛生及び感染症対策にも努めております。	ホールは天窓があり明るく、室温を22度～23度に保ち、換気を定期的に行っている。ホールや廊下には、利用者が手作りした作品や毎月、職員と一緒に作った季節感ある作品が飾られ居心地が良いように努めている。小上がりのスペースは、来訪者との交流や利用者同士の団らんの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であっても、ソファを配置したり、一人用テーブルを設けたり、小上がりの和室もあるので、各人が思い思いに過ごせるような居場所は設けております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家から馴染の物を持ち込んでもらえるようお願いし、自宅と同じ環境で生活が出来る事を理想としております。その為、皆様、家具も様々ですが、部屋のレイアウトも自由に過ごしやすい環境にして頂いております。	ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けられている。利用者の安全に配慮した動線にし、ベッドや家具を配置している。たんすやテレビ、ラジオ等を持ち込み、利用者の作品や家族の写真、小物などが見やすく飾られ居心地の良い空間となっている。部屋の片づけや掃除は、利用者と担当職員が一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	空間認識が失認されてしまう方もおりますので、わかりやすい表示により、失行も軽減出来る事も増え、可能な限り自立支援できるよう環境作りを行っている。		